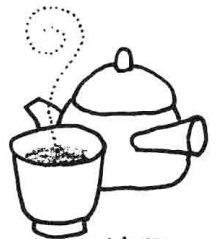




白川の風



ふるさと茶屋 情報誌

2009. 冬号 vol.31

朝夕の冷え込みが日ごとに増し、寒い地方からは初雪の便りも届き冬の訪れを感じる頃となりました。「秋のお茶まつり」も皆様方のおかげで好評のうちに終了することができましたこと、厚く御礼申し上げます。

時の流れは早いもので、今年も残りわずかとなりました。今年は新型インフルエンザの流行が収まらず日本はもとより世界各地で猛威をふるいはじめています。これから寒い季節にはさらに流行が心配されますが、まず簡単に始められる「手洗い」と「緑茶うがい」で少しでも感染予防ができればと考えています。

これからの寒い季節、皆様の“心なごむ”ひとときにはますぶち園のお茶がぴったり！
身も心もほかほか温かいひとときをどうぞ・・・

茶畑日記

間もなく 寒さ厳しい冬 その前に……

秋から冬にかけての作業は、長い冬の眠りの前に来年のための準備です。今年最後の整枝は天候にも恵まれ少し雨がほしいようにも思いましたが秋晴れの下、順調に行われました。秋整枝は、摘採面を整え翌年の新茶に古葉や木茎が混入しないようにするための作業ですが、来年の収量などに大きく影響するので、作業する時期や刈る高さなどの判断を慎重に行います。また、深く整枝すると寒害を受ける可能性もあり、広い茶畑の全てを終えるまで気の許せない作業です。

今年若い新人がベテランの茶農家と秋整枝をしました。足場が悪く一足一足慎重に作業を進めていました。仕事をしながら茶樹の生育や美味しいお茶づくりの勉強が続きます……。



今年もいろいろな人たちが茶畑に関わりましたが、中ども近所のおばさんたちの応援のおかげで作業も無事終わることができました。今年最後の茶畑の作業の日、おばさんたちは、ちょっと淋しそうに最後の最後まで茶畑仕事をやり残しはないかな？と草取りをしていました。

1年の賑やかだった茶畑も秋作業を終えると“シーン”と静まりかえり茶畑は不思議に厳しい冬が目の前にやって来ることを感じているようにも見え“ありがとう”という声が聞こえてくるようで広い茶畑が愛しく思えました。

急須で淹れるお茶とペットボトルのお茶

ここ何年かで急須で淹れるお茶の需要が減り、ペットボトルなどの緑茶飲料の需要が増える傾向にあります。ということは、急須で淹れるお茶の需要を緑茶飲料が奪ってしまったということなのではないでしょうか？

最近リサーチ会社により「急須で淹れるお茶」と「緑茶飲料」のどちらに魅力を感じますか？というアンケートが行われたそうです。

この結果は性別、年代にかかわらず圧倒的に多くの方が「急須で淹れるお茶」に魅力を感じると回答したそうです。

～急須で淹れるお茶と緑茶飲料を利用目的で比較すると～

- 急須で淹れたお茶は・・・くつろぎ、やすらぎ→「心」を潤す情緒的価値
- 緑茶飲料は・・・手軽で便利、さっぱり、すっきりな飲料→「のど」を潤す機能的価値

というように、利用のされ方の違いがあることがわかります！

アンケートの結果や機能性の違いから、急須で淹れるお茶と緑茶飲料は直接的な競合関係にはなく、同じ情緒的価値を与えるコーヒーや紅茶が競合していると言えます。このことから、ますぶち園をはじめ全国の茶商は、急須で淹れるお茶から感じる“くつろぎ”“やすらぎ”といった情緒的価値をより強調し、お茶の良さを発信していきたいと考えています。



あ、臭い！カメムシ

今年カメムシが大量発生！
カメムシの発生が、多い年は、雪の量が、多いと言われている。カメムシといえば、臭い、毒、刺さる、怖い、など、悪いイメージが強い。カメムシは、秋から冬にかけて、茶畑に発生し、茶葉を食害する。カメムシは、茶畑に発生すると、茶葉の味や香り、見た目などに悪影響を及ぼす。カメムシは、茶畑に発生すると、茶葉の味や香り、見た目などに悪影響を及ぼす。カメムシは、茶畑に発生すると、茶葉の味や香り、見た目などに悪影響を及ぼす。